

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
総括研究報告書

発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの作成のための研究

研究代表者 加藤 進昌 公益財団法人神経研究所 所長

研究要旨

発達障害が社会に認知されるとともに行政への相談や医療機関への受診者が急増している一方、対応できる人材の不足と包括的な医療システムの未整備が喫緊の課題となっている。過去の厚労科研で提言された「各地域の実状に合わせた医療システム」を実装するために、本研究では児童・思春期の拠点機関を北海道大学、成人期の拠点機関を神経研究所附属晴和病院、拠点統括を昭和大学発達障害医療研究所としてモデルを構築し全国化を見据えた運営ガイドラインの作成を目的とする。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

太田 晴久・昭和大学発達障害医療研究所 准教授

齊藤 卓弥・北海道大学医学研究院児童思春期精神医学分野 教授

A. 研究目的

晴和病院では、昭和大学発達障害医療研究所を追随するかたちで、専門外来とともに自閉症スペクトラム症（ASD）に特化したデイケアを開設した。2013年度の開設から6年間で、約2000名近い患者を受け入れている。このような当事者の生活支援・社会参加を目指す事業は他に例を見ない。本研究ではこの実績をもとに、1）拠点機関に必要な機能について調査検討を行う。2）東京都における拠点モデルを構築する。なお、児童思春期から成人期への診療移行・引継ぎも大きな問題である。そのため晴和病院では発達障害専門外来初診患者の全カルテ調査をする。また、当事者の生活支援拠点としてのグループホームの利用への提言も必要と思われることから、グループホーム利用の実情についての調査を行う。

B. 研究方法

2018年度に実施した、東京都精神障害者共同ホーム連絡会の主に協力を得て配布した「グループホームにおける発達障害事例の実数および実態の調査」についての解析を行った（配布数：73部、回収数：40部、回収率：54.8%）。また協力許可のあった施設にヒアリング調査を実施し、内容検討を行う。

発達障害専門外来全例のカルテ調査を実施する。その上で、引きこもりの実態と思春期から成人期への移行例について調査を行う。

（倫理面への配慮）

公益財団法人神経研究所附属晴和病院の倫理委員会から承認を得る。

C. 研究結果

グループホームに対する調査として、主に東京都

精神障害共同ホーム連絡会を通じてアンケートを実施し（配布数73部）うち40部の回収を得た（回収率54.8%）。回収したアンケートを解析した結果、アンケート回答施設の背景は「通過型70%」、「通過・滞在型15%」、「滞在型13%」であり、回答者の半数が精神保健福祉士の資格を有していることが明らかとなった。また、アンケート回答施設のうち80%の施設では発達障害者（発達障害疑い、知的障害併存を含む）の受け入れがあった。そこで、実際の支援における難しさを尋ねたところ、「コミュニケーションの齟齬（44%）」、「感覚過敏による訴え（31%）」、「利用者同士のトラブル（25%）」の順で回答が多く、その他に「生活管理能力（整理整頓や金銭管理）」、「ルール厳守の困難」、「体調の不安定さ」等が挙げられた。また、発達障害者を受け入れるための必要事項を尋ねたところ、「特性理解」、「医療機関や支援機関との情報共有」という意見が多かった。なお、医療機関に望む情報提供内容を尋ねた際も「特性情報」は最も回答数が多かった。一方で、回答施設の20%では受け入れがなかった。受け入れを行わない理由として、「発達障害者の入所希望がない」が最も多く、次に、「発達障害特性由来の対人的トラブルの懸念」、「対応がわからない」が挙げられた。

前述のアンケート調査に加え、追加のヒアリング調査を4件（アンケート回収時の発達障害者の受け入れあり：3件 なし：1件）行った。その結果、発達障害者の受け入れがあるグループホームでは、発達障害特性による入居者間や近隣住民とのトラブルは実際には少ないことが明らかとなった。また、アンケート回収時点では「発達障害者の受け入れなし」と回答された1機関にもヒアリング調査を打診したところ、アンケート調査以降受け入れを行うようになっていた。これは、問い合わせ数の増加により方針の変更を余儀なくされたためとのことであった。全支援機関の当事者担当支援者からは、アンケート調査に挙がっていたような発達障害特性による支援の困難さにより疲弊してしまうことがあるという話が聴かれた。ただ、当事者の障害受容が適切になされ、環境が整い、かつ家族関係が良好な場合には、特段支援の難しさは感じられないという声もあった。

発達障害の引きこもりの実態を明らかにするため、晴和病院の発達外来全例のカルテ調査を行った。20

13年度から始まった発達外来の初診者数（再来新患を除く）は、2019年度までで1854件であった。うち、データに不備のない1714件のカルテから確認できた引きこもりの数は240名（14%）だった。ただし、引きこもりの240名中には発達障害の診断がされなかった者も含まれていたため、発達障害の診断を受けた者のみを抽出したところ228名（13%）が該当した。このことから、晴和病院の発達外来を受診する者の約14%は引きこもり問題を抱えていること、そして引きこもり者の約95%に発達障害の診断が認められることが明らかとなった。また、発達障害の思春期から成人期への移行例を明らかにするため、晴和病院の発達外来全例（2013年度～2019年度）のカルテ調査を行い、他の医療機関から晴和病院の発達外来につながった18歳以下の人数を調べた。データに不備のない1714件のカルテから確認できた18歳以下の人数は99名で、うち他医療機関からの紹介状を持っていたのは49名（49%）だった。なお、1714名のうち1339名が40歳未満であることも合わせて確認された。

成人期発達障害拠点機関として、ASD専門プログラムの普及推進活動に継続して取り組んでいる。外部見学者の受け入れを行い2019年度は15機関の見学があった。プログラム終了後には担当スタッフと見学者との間に小ミーティングを設けて質疑応答を行うなど、プログラムへの理解を深めるための取組も行った。

プログラム拡充への取り組みとしては、2019年度も引き続きADHD専門プログラムを実施した（全12回、延べ参加者数266人）。また、発達障害と診断された未就労者を主な対象とする「就活講座」を、全13回を1クールとして実施した（一回当たりの平均参加者数約10人）。この講座を経由して就職あるいは就労支援機関につながった患者数は、2019年度は総参加者数の43%相当であった。さらに、2018年度より新設したASD専門プログラム修了者を対象としたピアサポートプログラム中心の「マスターコース」では、毎回の参加者数は登録者の6割を超えている。なお、2019年度3月時点で土曜日開催のASD専門プログラム卒業予定者9名中5名がマスターコースへ移行を希望している。

発達障害の家族支援としては、家族懇談会を2回実施し、延べ90名の参加者があった。2019年度からは家族が主体となった家族会を発足させるべく、家族会準備会を開始した。月一回の定例会議では毎回約12名の家族が参加されている。なお、今年度より、家族懇談会と家族会準備会の参加対象者をダイケアプログラム参加者に限定することなく、外来患者にも広げる試みを始めた。

#### D．考察

グループホーム研究では、対人トラブルを避け発達障害者にとって安心した環境をつくるためには、個別性を高めた環境を用意することと支援者のQOLを保つことの重要性が示唆される。そのためには、当事者に関する正確かつ詳細な情報が必須であり、関連機関との密接な連携の重要性が改めて確認されたと言えるだろう。ヒアリング調査の際、医療機関との情報共有は書面だと情報量が限られるため対面や電話での連携を望むという声があった。グループホームと医療機関と連携は、その形式についても検討すべき事柄がある。

カルテ調査の結果より、引きこもりの問題を抱え

ている95%に発達障害の診断が出ている。この結果は、発達外来における引きこもりに対する支援策を考えていくことの必要性を示しているだろう。また、受診者（思春期）の約半数が思春期から成人期にかけて継続的な支援を受けていることが確認された。このことから、発達障害は一過性の支援ではなく、ライフサイクルに合わせた継続的な支援の必要性があると考えられる。改めて発達障害のトランジションについて考えるきっかけとなる結果といえるだろう。

ASD専門プログラムの普及推進活動として、外部見学者の受け入れを積極的に行っている。見学終了後の小ミーティングでは専門プログラムの進め方や発達障害者支援についての質問があり、質の高い意見交換が可能となっている。発達障害者支援の質を高めるためには、他機関同士が知り合う機会を設けることの重要性が示唆される。

プログラム拡充への取り組みとして、まずADHD専門プログラムは、基本的な疾病理解から障害特性由来の困り感に対するコーピング行動の検討までを取り扱うことから、ADHD患者に対する入門コースといえる。プログラム内容をさらに洗練させ、支援の質を高めていくことが求められるだろう。また、「就活講座」は就職活動に関する知識の習得と就労に向けた関心を高めることに寄与しており、先読みが苦手な当事者にとって予測の難しかった就職活動の流れを把握できるようになったと推察される。さらに、「マスターコース」の参加者数が高い数値を維持し、ASD専門プログラム卒業生の一定数がこのコースへの移行を希望することからは、このコースが居場所及び実生活での具体的な困りごとを互いに分かち合う場を提供する機能を担っていると考えられる。

年2回実施している家族懇談会は、参加者の満足度は高く、今まで家族の中で抱え込んでいた悩みを分かち合うことで助けられている家族がいることが分かってきた。ただ、開催時間には限りがあり、「時間が足りない」という声が多く聞かれている。しかし、医療機関が家族を支援していくことには物理面およびコスト面で限界がある。このため、家族が主体となった家族会の設立を進めている。家族会が設立されることで、家族同士が助け合える家族組織として機能し、より家族支援の質を高めることにつながると考える。

#### E．結論

グループホーム調査からは、医療機関との連携の重要性が確認された。晴和病院に東京都拠点モデルを構築し、相談（家族・法律など）受付機能とともに、ダイケアと一体化したグループホームの設置を目指す。ハードウェアが間に合わなければ既存のグループホームとの連携も目指す。また、引きこもりの実態についてカルテ調査をし、発達障害との関連の強さを確認した。さらに、思春期・成人期の移行例についてもカルテ調査を行い、改めて発達障害のトランジションについて検討することの重要性が示唆された。さらに、発達障害者に対する支援を広げるために、プログラムの拡充を図った。今後も継続して検討を重ねていく。

#### F．健康危険情報

該当なし

#### G．研究発表

## 1. 論文発表

- 1) Yamagata B, Itahashi T, Fujino J, Ohta H, Nakamura M, Kato N, Mimura M, Hashimoto RI, Aoki Y. Machine learning approach to identify a resting-state functional connectivity pattern serving as an endophenotype of autism spectrum disorder. *Brain Imaging and Behavior*, 13(6): 1689-1698, 2019. doi: 10.1007/s11682-018-9973-2.
- 2) Fujino J, Tei S, Itahashi T, Aoki Y, Ohta H, Kubota M, Isobe M, Hashimoto RI, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Need for closure and cognitive flexibility in individuals with autism spectrum disorder: A preliminary study. *Psychiatry Research*, 271:247-252, 2019. doi: 10.1016/j.psychres.2018.11.057.
- 3) Togo S, Itahashi T, Hashimoto R, Cai C, Kanai C, Kato N, Imamizu H. Fourth finger dependence of high-functioning autism spectrum disorder in multi-digit force coordination. *Scientific Reports*, 9: 1737, 2019. doi: 10.1038/s41598-018-38421-6.
- 4) Yamashita A, Yahata N, Itahashi T, Lisi G, Yamada T, Ichikawa N, Takamura M, Yoshihara Y, Kunimatsu A, Okada N, Yamagata H, Matsuo K, Hashimoto R, Okada G, Sakai Y, Morimoto J, Narumoto J, Shimada Y, Kasai K, Kato N, Takahashi H, Okamoto Y, Tanaka C Saori, Kawato M, Yamashita O, Imamizu H. Harmonization of resting-state functional MRI data across multiple imaging sites via the separation of site differences into sampling bias and measurement bias. *PLOS Biology*, 17: e3000042, 2019. doi: 10.1371/journal.pbio.3000042.
- 5) Tei S, Fujino J, Itahashi T, Aoki Y, Ohta H, Kubota M, Hashimoto RI, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Egocentric biases and atypical generosity in autistic individuals. *Autism Research*, 12: 1598-1608, 2019. doi: 10.1002/aur.2130.
- 6) Honma M, Itoi C, Midorikawa A, Terao Y, Masaoka Y, Kuroda T, Futamura A, Shiromaru A, Ohta H, Kato N, Kawamura M, Ono K. Contraction of distance and duration production in autism spectrum disorder. *Scientific Reports*, 9: 8806, 2019. doi: 10.1038/s41598-019-45250-8.
- 7) Itoi C, Kato N, Kashino M. People with autism perceive drastic illusory changes for repeated verbal stimuli. *Scientific Reports*, 9: 15866, 2019. doi: 10.1038/s41598-019-52329-9.
- 8) Yamagata B, Itahashi T, Fujino J, Ohta H, Takashio O, Nakamura M, Kato N, Mimura M, Hashimoto RI, Aoki YY. Cortical surface architecture endophenotype and correlates of clinical diagnosis of autism spectrum disorder. *Psychiatry and Clinical Neuroscience*, 73: 409-415, 2019. doi: 10.1111/pcn.12854.
- 9) Fujino J, Tei S, Itahashi T, Aoki YY, Ohta H, Kubota M, Hashimoto RI, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Impact of past experiences on decision-making in autism spectrum disorder. *European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience*, 2019. [Online ahead of print] doi: 10.1007/s00406-019-01071-4.
- 10) Doi H, Kanai C, Tsumura N, Shinohara K, Kato N. Lack of implicit visual perspective taking in adult males with autism spectrum disorders. *Research in Developmental Disabilities*, 99, 2020. [Online ahead of print] doi: 10.1016/j.ridd.2020.103593.
- 11) 横井英樹, 五十嵐美紀, 加藤進昌. 発達障害を対象としたデイケアでのプログラム. *産業精神保健*, 27巻(特別): 90-94, 2019.
- 12) 田川杏那, 太田晴久, 川嶋真紀子, 今井美穂, 反町絵美, 牧山優, 安宅勝弘, 相澤直子, 丸田伯子, 河合雅代, 横井英樹, 五十嵐美紀, 小峰洋子, 加藤進昌. 医療機関における発達障害学生の支援に関するニーズ調査. *大学のメンタルヘルス*, 3: 159-164, 2019.
- 13) 加藤進昌. 成人の発達障害 ASD を中心に . *精神科臨床 Legato*, 6(1): 12-16, 2020.
- 14) 加藤進昌. 発達障害支援の現状とこれから . *心と社会*, 51(1)(179): 4-5, 2020.
- 15) 村上あゆみ, 牧山優. デイケアでの就労支援プログラムについて . *心と社会*, 51(1)(179): 44-50, 2020.
- 16) 満山かおる, 川嶋真紀子. 心理カウンセリングの可能性 ~ 検査入院から ~ . *心と社会*, 51(1)(179): 51-56, 2020.
- 17) 桑野大輔. 東京都成人期発達障害者生活支援モデル事業 成人期発達障害専門医療機関の取り組み . *心と社会*, 51(1)(179): 19-24, 2020.
- 18) 村上あゆみ, 牧山優. デイケアでの就労支援プログラムについて . *心と社会*, 51(1)(179): 44-50, 2020.
- 19) 満山かおる, 川嶋真紀子. 心理カウンセリングの可能性 . *心と社会*, 51(1)(179): 51-56, 2020.

## 2. 学会発表

### <口頭発表>

- 1) 加藤進昌. 大人の発達障害とは何か ~ 障碍者とともに働く際のケア ~ . 外務省・障碍者雇用に関する一般省員向け研修会, 東京・外務省講堂, 2019/4/10
- 2) 加藤進昌. 大人の発達障害とメンタルヘルス . 第30回日本医学会総会2019中部, 愛知・名古屋国際会議場, 2019/4/28
- 3) 加藤進昌. 成人の発達障害 . 「成人発達障害」講演会, 東京・稲城台病院, 2019/6/10
- 4) 加藤進昌. 大人の発達障害への理解 . 消防大学校幹部科講義, 東京・総務省消防庁消防大学校, 2019/7/1
- 5) 太田晴久, 川嶋真紀子, 牧山優, 今井美穂. 発達障害を持つ大学生への支援 . 筑波大学精神神経科勉強会, 茨城・筑波大学附属病院, 2019/7/8 (教育講演)
- 6) 加藤進昌. 大人のADHDをめぐって ~ 成長による変化、ASDとの差異、薬物反応性 ~ . 外務省・障碍者雇用に関する一般省員向け研修会, 東京・外務省講堂, 2019/7/10
- 7) 加藤進昌. 大人の発達障害の理解と付き合い方 ~ 分類と診断基準、治療、生活支援・就労支援・

- 家族支援～．福島県看護協会一般研修，福島・福島県看護会館みらい，2019/8/30
- 8) 加藤進昌．大人の発達障害への理解．消防大学校幹部科講義，東京・総務省消防庁消防大学校，2019/9/6
  - 9) 加藤進昌．大人のアスペルガー症候群とは何か～脳内メカニズムの解明からリハビリテーションまで～．2019年度都医学研都民講座「自閉症の理解と回復を目指して」，東京・烏山区民会館ホール，2019/9/27
  - 10) 加藤進昌．発達障害支援のこれからを考える．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学アニー・ランドルフ記念講堂，2019/10/26（記念講演）
  - 11) 加藤進昌．アスペルガー症候群の脳科学～脳画像研究からリハビリテーションまで～．埼玉医科大学卒業教育プログラム学術集会，埼玉・埼玉医科大学，2019/11/18
  - 12) 牧山優．発達障害を有する大学生へのショートケアプログラム開発と包括的支援システムの構築．医療機関におけるプログラムの実践．第41回全国大学メンタルヘルス学会総会．大阪・大阪大学，2019/12/5-6（一般研究発表）
  - 13) 今井美穂，横井英樹，五十嵐美紀，水野健，満山かおる，牧山優，川嶋真紀子，太田晴久．発達障害を有する学生向けプログラムの開発のためのニーズ調査．第41回全国大学メンタルヘルス学会，大阪・大阪大学，2019/12/5-6（一般研究発表）
  - 14) 加藤進昌．大人の発達障害～その理解と自立を目指して～．第769回浅草寺仏教文化講座，東京・丸の内マイプラザホール，2019/12/20
  - 15) 加藤進昌．発達障害(ADHD)～脳最新の薬物治療及び患者コミュニケーションに関する研修～，日本精神薬学会 Web セミナー，2019/12/2～2020/5/29
  - 16) 加藤進昌．発達障害のコアな障害は何か～社会性の障害ではわからない～．明治安田こころの健康財団集中講座 1，東京・明治安田こころの健康財団，2020/1/18
  - 17) 加藤進昌．発達障害の過剰診断を克服するには．明治安田こころの健康財団集中講座 2，東京・明治安田こころの健康財団，2020/1/19
  - 18) 加藤進昌．成人期発達障害者支援における支援ネットワークの構築．東京都発達障害者支援体制整備推進事業シンポジウム，東京・都民ホール，2020/1/31（基調講演）
  - 19) 加藤進昌．発達障害の基礎知識と接し方．令和元年度新宿区精神保健講演会，東京・新宿区役所二分庁舎分館，2020/2/10
  - 20) 加藤進昌．大人の発達障害．消防大学校幹部科講義，東京・総務省消防庁消防大学校，2020/2/17
  - 21) 反町絵美．発達障害患者の家族支援．家族会立ち上げに向けての取り組み報告．第21回日本子ども健康科学学会学術大会，東京・聖心女子大学，2020/3/7-8
- Autism Research 2019 Annual Meeting, Montreal Convention Centre, Montreal, Canada, 2019/5/1-4
- 2) Kawashima M, Makiyama Y, Tagawa A, Sumita R, Takahashi R, Muraki K, Yamada T, Kato N. Age-related changes in autistic traits: A survey for the adults with currently high autistic traits with and without autism spectrum disorder. International Society for Autism Research 2019 Annual Meeting, Montreal Convention Centre, Montreal, Canada, 2019/5/1-4
  - 3) 川嶋真紀子，住田理加，高橋里衣奈，田川杏那．発達障害検査入院の実践報告．青年期事例を中心に．第38回日本心理臨床学会，神奈川・パシフィコ横浜，2019/6/7
  - 4) 岩波直子，満山かおる，田川杏那，反町絵美，川嶋真紀子，高橋里衣奈，住田理加，大河内範子．成人の発達障害患者の認知的特徴の検討「発達障害専門外来におけるWAIS データからの報告」．第38回日本心理臨床学会，神奈川・パシフィコ横浜，2019/6/7（ポスター）
  - 5) 川嶋真紀子．発達障害疑いにてロールシャッハテストを実施した青年期事例．第25回包括システムによる日本ロールシャッハ学会，東京・跡見女子大学，2019/7/7
  - 6) 反町絵美，岩波直子，牧山優．ピアサポートプログラムでの取り組み報告．個別面談と振り返りタイムの設定．第24回デイケア学会，北海道・北星学園大学，2019/9/14-15（ポスター）
  - 7) 昭和大学発達障害医療研究所，公益財団法人神経研究所附属晴和病院，他．成人発達障害専門プログラム研修．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ワークショップ）
  - 8) 桑野大輔，加藤進昌．発達障害専門プログラム導入支援．東京都成人期発達障害者生活支援モデル事業を通して．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
  - 9) 木村真也，佐々木かおり，伊東若子，村木健郎，加藤進昌．発達障害における睡眠障害合併率の調査．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
  - 10) 高橋昌裕，堀田和代，船木由香里，桑野大輔，川嶋真紀子，住田理加，高橋里衣奈，村木健郎，加藤進昌．発達障害検査入院における多職種連携．入院生活を通して見えたもの．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
  - 11) 川嶋真紀子．青年期事例における発達障害と統合失調症の鑑別．検査入院から．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
  - 12) 船木由香里，桑野大輔，川嶋真紀子，住田理加，高橋里衣奈，高橋昌裕，堀田和代，村木健郎，加藤進昌．発達障害検査入院における多職種連携．入口としての入院相談．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
  - 13) 牧山優，川嶋真紀子，反町絵美，満山かおる，五十嵐美紀，横井英樹，今井美穂，太田晴久．

<それ以外の発表>

- 1) Makiyama Y, Kawashima M, Tagawa A, Imai M, Yamada T, Kato N. Group rehabilitation program for undergraduate students improves their social adaptation ability and prevents their dropouts. International Society for

発達障害学生の家族が求める支援の現状：第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）

- 14) 満山かおる．成人発達障害外来を受診する一般社会で『発達？』と言われる成人の心理検査から見た特徴．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
- 15) 高橋里衣奈，川嶋真紀子，住田理加，田川杏那．発達障害検査入院の実践報告 青年期事例を中心に．第7回成人発達障害支援学会，愛知・金城学院大学，2019/10/26-27（ポスター）
- 16) 川嶋真紀子，船木由香里，高橋昌裕，堀田和代，住田理加，高橋里衣奈，村木健郎，加藤進昌．発達障害検査入院における多職種連携 入院生活を通して見えたもの．第31回東京精神科病院協会学会，東京・京王プラザホテル，2019/10/30（ポスター）
- 17) 別所園美，高橋里衣奈．発達障害専門プログラム（デイケア）についての検討 開始から5年が過ぎた当院のデイケアについて - 第27回日本精神障害者リハビリテーション学会，大阪・関西大学千里山キャンパス，2019/11/22-24（ポスター）
- 18) 牧山優，村上あゆみ，桑野大輔．発達障害をもつ未就労者を主な対象とした『就活講座』の取り組み．第27回日本精神障害者リハビリテーション学会，大阪・関西大学千里山キャンパス，2019/11/22-24（ポスター）

#### H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし